

令和8年度事業計画(美術館)

自 令和8年4月1日

至 令和9年3月31日

公益目的事業2(展覧会事業)

1. 「河鍋暁斎展」の開催

- ア. 名称 「ゴールドマンコレクション 河鍋暁斎の世界」
- イ. 会期 令和8年4月22日(水)～令和8年6月21日(日)
- ウ. 概要 幕末・明治期に活躍し、今なお国内外で高い人気を誇る絵師・河鍋暁斎(1831～89)。手がけた画題は神仏画から戯画、動物画、妖怪画に至るまで、非常に多岐にわたり、そのいずれにも卓越した画技と機知に富んだ発想が見られます。本展では、世界屈指の暁斎コレクターである、イギリス在住のイスラエル・ゴールドマン氏の所蔵作品より、コレクションを代表する肉筆画と版画の名品、および日本初出品となる優品の数々をご紹介します。
- エ. 展示 ・「地獄太夫と一休」一幅 明治4～22年(1871-89年)
・「三味線を弾く洋装の骸骨と踊る妖怪」一葉 明治4～12年(1871-1879年)
・「百鬼夜行図屏風」六曲一双 明治4～22年(1871-1879年)
以上すべて、作者は河鍋暁斎、所蔵はイスラエル・ゴールドマン・コレクション
- オ. 備考 共催：朝日新聞社 巡回：神戸市立博物館 静岡県内

2. 「食器展」の開催

- ア. 名称 「眼のごちそう 食器」
- イ. 会期 令和8年7月8日(水)～令和8年8月30日(日)
- ウ. 概要 日本のおもてなしの場を飾った陶磁の食器を、桃山～江戸時代を中心に特集します。食器のデザインにはもてなす人からの温かいメッセージが込められており、そこに盛り付けられたおいしい料理と相俟って客人に深い喜びをもたらす「眼のごちそう」なのです。産地、作者、形、文様も多様な食器を本展ではご紹介します。このような食器が使われた当時のもてなしのようすにも時おり触れながら、一つ一つの造形をお楽しみください。
- エ. 展示 ・重要文化財「染付松樹文三脚大皿」一口 鍋島藩窯 江戸時代 17～18世紀 当館蔵
・重要文化財「染付白泥薄文蓋物」一合 尾形乾山 江戸時代 18世紀 当館蔵
・「百合形向付」五口 野々村仁清 江戸時代 17世紀 野村美術館蔵
- オ. 備考 共催：無し

3. 「逸翁美術館展」の開催

- ア. 名称 「逸翁美術館名品展(仮称)」
- イ. 会期 令和8年9月16日(水)～令和8年11月8日(日)
- ウ. 概要 逸翁美術館は、阪急東宝グループ(現・阪急阪神東宝グループ)の創業者として知られる近代日本を代表する実業家・小林一三(1873～1957)の雅号「逸翁」を冠して、1957年に大阪・池田市に設立されました。人々と美を分かち合う姿勢に貫かれた5,500件におよぶコレクションは、逸翁の多方面に及ぶ業績と進取の気風に富む人間性を反映し、古筆切、茶道具から

与謝蕪村・呉春の絵画に至るまで実に多岐にわたります。今回は、その選りすぐりの名品が一堂に会する待望の展覧会となります。

- エ. 展示 ・重要文化財「白梅図屏風」呉春 六曲一双 江戸時代 18世紀
・重要文化財「佐竹本三十六歌仙切 藤原高光」伝藤原信実画・伝後京極良経詞書
鎌倉時代 13世紀
・重要文化財「豊臣秀吉画像」狩野光信 桃山時代 17世紀
- オ. 備考 共催：無し

4. 「法華経展」の開催

- ア. 名称 「法華経の美術（仮称）」
- イ. 会期 令和8年12月12日（土）～令和9年2月7日（日）
- ウ. 概要 法華経は性別や階級を越えて日本で最も信仰され続けた仏教経典のひとつで、普くすべての人間が平等に成仏でき、現世のあらゆる苦難から救済されることなどが説かれています。ほとけに救われたいという法華経への信仰を通じて、古代から近世に至るまで多彩な美術が造り出されてきました。本展では華麗な装飾経や仏像・仏画など、法華経にまつわる美術を名品の数々でご紹介し、信仰のつながりや広がりを感じていただく機会となります。
- エ. 展示 ・重要文化財「獅子・象」二軀 木造彩色 切金 鎌倉時代 12～13世紀 当館蔵
・国宝「扇面法華経冊子 巻第一」五帖のうち一帖 紙本著色 平安時代 12世紀
大阪・四天王寺蔵
・重要文化財「蓮池蒔絵経箱」一合 木製漆塗 鎌倉時代 13世紀 国有（文化庁蔵）
- オ. 備考 共催：無し

収益目的事業

1. 物販事業

企画展や収蔵品をモチーフにしたオリジナルグッズの展開に加え、日々の生活に彩りを添える商品を季節ごとに投入して店舗の鮮度を維持し、お客様に繰り返し足を運んでいただけるショップを目指す。

2. 飲食事業

「加賀麩 不室屋」の歴史・伝統を活かした食事・甘味メニューに加え、季節感を取り入れたメニューを展開し、お客様層の拡大およびリピーターの増加を図る。また物販においても手土産・贈答にご利用いただける価格帯の詰め合わせを充実させ、飲食事業の売上の底上げを図る。

3. 貸室事業

「茶室」の貸出により収益を得るだけでなく、当館ならではの価値を訴求し、結果として日本のお茶文化の普及にも貢献していく。

以 上